古地磁気岩石磁気研究会２００４年夏の学校

平成１６年７月２９日ー３１日，高知大学朝倉キャンパスおよび海洋コア総合研究センターにて，３０名（教員・研究者１８名，学生１２名）の参加をえて開催した．一日目は，「磁性物理学と岩石磁気学との接点」をテーマに，磁性物理の最先端で活躍されている松村政博・加藤治一（高知大理）のおふたりから，高温超伝導・核磁気共鳴・多粒子相関物理などに関する招待講演をいただいた．日頃のルーチン測定やデータ解析に追われる参加者らにとって，いささか聞き慣れぬ話題ではあったが，多くの示唆を得られた方々も多かったのではなかろうか．引き続いて，今を盛りのFORC法に関する講演が，福間浩司（同志社大）・小田啓邦（産総研）の両氏からなされた．分かりやすくかつ本質をとらえた両氏の解説に納得顔の研究者・学生諸子が多かった．初日最後は，本分科会活動の報告を石川尚人（京大）氏からいただいた．

二日目の午前は，同じく朝倉キャンパスにおいて７件の一般講演がなされた．午後は会場を海洋コア総合研究センター（物部キャンパス）に移し，施設見学と総合討論を行った．同所においてはすでに，「若手研究者・学生のための掘削コア磁性測定技術習得ショートコース」（同年３月２３ー２５日）と題する実習主体の講習会が開催されている（会報第183号，2004）．幸いかなりのご好評を得たので，今回の夏の学校でも，その後半を実際の機器の使用ガイダンスや測定実習にあてようという試みであった．十分な時間がとれずご不便をおかけしたが，大方の目的は達成されたものと思う．

２００４年夏の学校幹事　小玉一人（高知大学海洋コア総合研究センター）